日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

# 裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２３期・２、３巻　２０１７年５・６月号－３　ＮＯ．１９３・４

仲間と仲間を結ぶ機関誌

# れいほう

Susono Reihou Alpine Club

山行ＮＯ．１７３８
０５月２７日　富士山頂

愛鷹躑躅

裾野麗峰山の会・山行報告書

文・勝又　　写真・後藤

山行NO　　ＮＯ．１７３８
日　時　　２０１７．０５．２０（土）晴れ九合以上強風
山　域　　富士山（３７７６ｍ）富士宮口
コース　　下土狩５：００－五合目発６：２５－九合五勺１０：２７－頂上１１：３９－富士宮頂上（昼食）１２：０１－－下山１２：２４－五合目１４：０６
標高差　　上り　五合目約２３７０ｍ～富士山頂３７７６ｍ＝約１４０６ｍ
　　下り　　〃
参加者　　Ｌ＝ＧＴ、ＫＨ、ＫＹ

# 今年は雪が少なかった

久ぶりの本格的な登山が富士山頂のため頂上まで持つか心配だった。
参加は３名、天気は晴れ、風もほとんどない。６時少し過ぎに富士宮口５合目駐車場に着くと上の駐車場はすでに満杯、下もすでに１/４ほど埋まっている。あまりの多さにビックリする。

水ヶ塚から

６時２５分出発、六合目を過ぎ新７合目下の雪渓は凍っていて滑りやすい。
途中残雪もなく登山道を上るが３０００m付近から雪渓がつづく。
八合目山小屋でアイゼンをつけるため休憩をとるが、今年は例年に比べ雪が少ないようだ。
雪はザラメ状、しっかり踏み込まないとズルズルすべってしまう。

９時発、風も吹き始めた。急斜面の雪渓をグングン上るがさすがにきつい。
スキーヤーやボーダーも多く彼らには感心する。
途中、下を見るが愛鷹山がやけに低く小さく見える。
９合目あたりから風も強くなってくるがここまで来たら頂上を目指すしかない。
九号五勺からブル道に入る。ここはなだらかな上りなので一息つける、

ブル道

トラバース気味な斜面でリーダより滑落に注意するように指示が出たため慎重に登る。
トラバースを終えあとは頂上、剣ヶ峰が目の前に見えてくる。
11 時 39 分頂上着、何とか上りきることができてホットする。
昼食は風が強いため浅間さん奥宮の陰でとることにする。
今日はビールなし、指先が冷たく痛くなってくるが熱いコーヒーが格別に旨い。
後は下るだけ、急斜面を注意しながらイッキに下るがまだまだ上ってくる登山者が多く、外人も多い。
途中、３歳くらいの子供を背負って登っている親子連れに会ったが頂上までは行かないとのことだった。
１３時を過ぎると七合目下はガスで視界が悪くなってきた。
とにかくどんどん下り、14 時 5 分無事下山、帰路、温泉に入り下土狩で反省会。
皆さんお疲れ様でした。

その他の記述（ごとう）

１．今年は６合に、あのバカバカしい、ゲートは無かった。

２．ＫＨは、シリセードで下山。速かった。

３．美人の湯で前夜、福井から来て上ったスキー男子２名と一緒だった。　（了）

裾野麗峰山の会山行報告書

文・長谷　　写真・室伏

山行番　　２０１７・清掃登山
日　時　　２０１７．５．２７（土）晴れ
山　域　　越前岳（１５０４ｍ）
コース　　各地ー集合山の神神社６：３０ー６：４０発ー大沢ー割石沢ー割石峠８：４０—蓬莱山ー
　　つつじ展望ー蓬莱山ー割石峠ー呼子岳９：３０ー越前岳（昼食）１０：２０ー１１：０５ー
　　富士見台ー黒岳分岐ー黒岳１２：４０ー黒岳分岐ー愛鷹山荘ー山の神神社１３：５０ー
　　美人の湯ー各地
標高差　　上り＝山の神神社約７００ｍ～越前岳１５０４ｍ＝約８０４ｍ
　　下り＝　　〃
参加者　　ＨＫ（L）、ＴＭ、ＭＭ、ＡＨ＝４名

# つつじが咲き誇っていました

今年は、まだ５月だというのに連日夏日で、今日の予想最高気温も２８℃で、
暑くなりそうである。
今回参加の２人は、２日前に熊野古道から帰ってきたばかりというのに、
疲れが残っている様子もない、さすが鍛えてますね。
山の神神社の駐車場には、車が数台あり、単独山行の神戸Ｎｏ．の方と
ご一緒することになった。

大沢

しばらく林道を行き、割石峠の道標から登り始める。
今日は、花を見つけたら、声をかけること。
緩やかな山道を１時間ほど行くと、大杉があり、小休止。
沢の両岸を行ったり来たり進む。この沢の上が、割石峠だ。

道標が、頻繁に合ったのに急に途中目印のテープを見逃し、
道らしきルートを進むと、正規のルートに合流。ＣＬ曰く
「このルートは、わかりにくいが、道を見失っても沢を登れば、
着きます、通常は、下側の沢を行けば、尾根に出ます。」勉強になる。

割石峠

割石峠着。なるほど、両側の岩山が割れたように切り立っている。
蓬莱山を超え、鋸岳方面の展望を望む。
つつじが帯状に見えるには、まだやや早かったが、素晴らしい展望である。
しかし、切り立った道に強風で、早々に戻る。
つつじの種類もいろいろで、並べて撮影、アシタカツツジきれいですね。
割石峠で、小休止後、呼子岳を経由し、越前岳へやせ尾根を進む。

つつじが、あちこちに咲いている。後半３０分の登りは、きつかった。
ようやく越前岳着。富士山がきれい。途中でも数人とすれ違ったが、頂上は、２０人ほどいた。
２００名山で人気の山である。風があり涼しいので、上着を着る。
ＣＬから黒ゴマそうめんの差し入れ、行者ニンニクの薬味もおいしかった。
ＴＭさん自家製ぬか漬けとＣＬおみやげのういろうも頂きました。

大岳

黒岳に向かう。途中の富士見台からも見事な富士山。
大杉をこえ、食後にはきつい急登１０分ほどをへて
黒岳着。こちらも富士山が素晴らしい。登山者も多かった。
分岐まで戻り下山、山林の間を進む。途中の愛鷹山荘は、無人無料開放だった。
快晴で、汗もかかず、今日はき持ちのいい登山日和でした。花々も多く見られました。
＊ブナＮｏ．２と４は、元気に育っていました。

＊神戸の石田さんは、１３日から車中泊で近隣の山々を登られて、２９日に古希のお祝いで箱根に集まり（隠岐の同級生！）、３１日に帰るそうです。
明日は、よく見えた宝永山に登る予定だそうです。美人の湯まで、ご一緒しました。
車は、Ｘトレイルの後部座席をフルフラットにして、快適そうでした。
＊山のゴミは、殆どありませんでした。

呼子岳

黒岳（了）

附録　２０１７熊野古道・小辺路

写真・文　後藤

期　日　２０１７.０５.２２(月)～２５（木）

参加者　後藤、高岡、渡邉典、田内、土屋弥、山口、加藤、峰田、合谷、鈴木新、鈴木綾、穐山、星、土屋公、土屋つ＝１５名

１日目（５月２２日）月・晴

コース　清水町発４：００—高野山・金剛三昧院発１１：５２—ろくろ峠—薄峠１２：４０ー御殿川・赤い鉄橋１３：２３—大滝集落（公衆トイレあり）１３：４８ーＲ３７１—水ヶ峯入口１４：４２—林道タイノ原線—かわらび荘ショートカット道１６：４５—大股・かわらび荘１７：１０（泊）

距　離　１６．８ｋｍ

標高差　下り　高野山約８１５ｍ～御殿川約６２０ｍ＝約１９５ｍ

上り　御殿川約６２０ｍ～水ヶ峰分岐約１１００ｍ＝約４８０ｍ

下り　水ヶ峰分岐約１１００ｍ～大股橋約６５０ｍ＝約４５０ｍ

宿　「かわらび荘」一泊二食・弁当付き＝８７００—、運転手＝８０００－

金剛三昧院でお勤め後、出発。天気は良い。
金剛三昧院は昨年宿泊した。北條政子が建立した国宝がある。見学は有料だが、トイレは無料で貸してくれた。残り石楠花がチラホラ。
薄峠まで林道みたいな所を歩く。峠付近は、高野槇が沢山栽培されていた。
下って、御殿川近くでは、ご夫婦が販売する槇を切っていた。一本＝１００－で卸しているそうだ。槇はみな巨木だった。高野槇は成長遅い。槇畑は先祖代々、続いているという。

金剛三昧院

高野槇栽培

大滝集落

水ヶ峯入口

御殿川の赤い橋を渡り大滝集落に入る。公衆トイレがあった。龍神スカイラインまで上りが続く。
更に水ヶ峯も厳しい上り。小辺路は登山だった。しかも、先は長いタイノ原線林道の下り。
下り切ると、今日の宿「かわらび荘」のショートカット道入り口。ただ、案内板が全くなく分かり難かった。まともに林道を下ると長い。
かわらび荘着。風呂は少し上の、近くの温泉に入った。民宿宿泊割引で４００－。
なかなかイイ温泉だった。
かわらび荘は、話好きな大ババ様が主役。昔、よく遠州方面に行ったという。８０歳を越えているが、極めて元気が良かった。夕餉は、猪鍋だったが、イマイチ。１日目は、無事終わった。

イノシシ鍋

かわらび荘

２日目（５月２３日）火・快晴

コース　かわらび荘発６：５５－大股橋登山口７：１５－伯母子岳（おばこだけ）９：５３～１０：１３－伯母子峠－上西家跡（昼食）１１：１９～１２：１０－伯母子岳登山口１４：２６－五百瀬（いもせ）「政所」１４：４５（泊）

距　離　１５．９ｍ

標高差　上り　大股橋約６５０ｍ～伯母子岳１３４４ｍ＝約６９４ｍ

　　下り　伯母子岳１３４４ｍ～舟渡橋約３５０ｍ＝約９９４ｍ

宿　　「政所」「山本屋」一泊二食・弁当付き＝８０００－、運転手＝８０００－

かわらび荘から出発。今日も天気は良好。大股橋から伯母子岳に向かう。
下部は急登。やがて頂と峠分岐。頂を目指す。伯母子岳は快晴で素晴らしい展望だった。
ただ、周りの山は分からない。
ヤマツツジが満開。外国の若い男女がやって来た。聞けば、男子はスペイン、
女子はスイスの方だった。二人とは、翌日も前後しながら歩いた。一緒に記念写真を撮って峠に下山。途中、シロヤシオが咲いていた。やや小ぶり。
峠には立派な小屋とトイレがあった。

伯母子岳（日本二百名山）

外人さんも一緒

新緑が素晴らしい

外人さん

峠から長い下り。上西家跡で昼食。ホウの花が満開。快晴で湿気がなく快適。
皆の元気な声がこだまする。ここから長いトラバースで伯母子岳登山口に下る。
左は急峻な崖で要注意。小辺路は、何処も厳しい崖が続く。
午後の下りで、また、外人さんに会った。男性はイギリス、女性はインド系だがフランス国籍。
男性は、長いヒゲだった。女性は日本語が上手かった。高野山まで行くと言っていた。
大汗をかいて伯母子岳登山口着。民宿「政所」までは近い。
今回は人数が１５名と多かったので、宿泊は「山本屋」と分かれた。「山本屋」ご主人は９名の村会議長さんだった。その日も、陳情に出かけたそうだ。夕方帰って来てすぐ田んぼの見回りに出かけた。働き者でした。

政所のババさま

山本屋夕食

可愛い烏骨鶏（うこっけい）

私は「山本屋」でしたが、夕食・朝食とも良かった。「政所」も良かったそうです。
ちなみに「政所」は、県指定有形文化財で、素晴らしかったそうです。

３日目（５月２４日）水・晴

コース　「政所」発６：５３－舟渡橋７：０２－三浦峠８：５６－三浦峠登山口１１：２９－昴の里・ホテル「昴」１４：１２（泊）

距　離　１９．２ｋｍ

標高差　上り　舟渡橋約３５０ｍ～三浦峠約１０８０ｍ＝約７３０ｍ
　　下り　三浦峠約１０８０ｍ～西中バス停約２００ｍ＝約８８０ｍ
　　西中バス停約２００ｍ～昴の里・吊橋約１５０ｍ＝約５０ｍ

宿　ホテル「昴」一泊一食（夕食は、オプション・朝食弁当・昼食弁当なし）＝７５６０－、運転手６４８０－

昨夜は、分宿だったが、大いに盛り上がった。夕食を終えてからも、女子部屋で飲んだ。
山本屋は、庭に烏骨鶏（うこっけい）を数羽飼っていた。羽根は白、鶏冠・爪など黒で、一見、「鶏のパンダ」みたいで可愛かった。
ただ、早朝四時ころからコケコッコーと鳴き続け、参ってしまった。
朝食時、議長さんが「煩かったでしょう」と恐縮しきり。朝食は、サイコーに良く美味しかった。
庭で議長・奥さんを交えて記念撮影。
「政所」に戻る。バス運転手も来たが、議長も送ってくれた。
眼下の川底が高く話題。山が急峻で崩壊が激しく、土砂で川底が上がり、洪水が出易くなる。道路の土砂崩れは頻繁で、ひとたび崩れるとライフラインは止まり、電気も一週間停電するそうだ。

山本屋で記念撮影

「政所」に戻って、ババさまに挨拶し出発。天気は良い。
十津川村の巡回バスが来た。運転手さんはフレンドリー。
わざわざ停車し、登山口を教えてくれた。
五百瀬・舟渡橋から登山開始。途中、「三十丁の水」が湧いていた。
三浦峠下は、崩れやすい山で一箇所怖い所があった。
しかし、崖に「キンラン」が一輪咲いていた。

ニコニコ運転手

舟渡橋

金襴

上り切れば三浦峠。立派な東屋・トイレがあった。
このトイレ、後で知ったが、西中集落の垣野さんが作ったそうだ。
大休止後、下山。長い長いトラバース道が続く。下り切って昼食時間。何処で食べるか物色していたら、立派な家があり、挨拶はしたが不在なので、庭で食べさせて貰った。
昼食が進んでいると、前方上からオジサンがブラブラやって来た。

聞けば、この家の主人のお父さんで、前述の三浦峠のトイレを作った方だった。
お名前は、垣野さん。６７歳で私より若かった。
垣野さんは大工。この息子宅も作ったそうだ。熊野古道の手入れも、定期的に行っているそうだ。
垣野さんは、とてもフレンドリーな方で話が弾んだ。旅に出て、優しくされると嬉しい。
民宿の弁当は、まあまあだった。近くの河原では、昨日の若い外人さんも昼食。女性は上着・ズボンを脱いで、日光浴だった。

山本屋のお弁当

垣野さん

草刈りのオジサン

椎平バス停

午後は、約２時間の車道歩き。長く辛い道だった。途中、地元の草刈りのオジサンと交流。
あたたかいオジサンだった。やがて、昴の里。
今日の宿、ホテル「昴」上を通過。この先が、待望の「果無（はてなし）」集落。
まだ、時間が早かった。明日は帰静する。時間を稼ぐため、果無集落まで上ろうと思った。
ところが、道が狭くバスが入れないという。今日の迎えだけなら、「昴」でやってくれるという。
しかし明日、果無まで送って貰わないと、今日先行する意味がない。
明日、送ってくれる車が無かった。タクシーは予約でいっぱい。宿も朝は多忙で、車は貸してくれなかった。
結局、今日は、明日果無に行けない方のみ上った。付き添いはＫがやってくれた。
果無集落は、長い吊橋で対岸に渡った。揺れて怖い吊橋だった。

長い吊橋

「昴」の温泉は良かった。夕食は、各自、メニューを注文する。
１４名が、１９５０－の「十津川御前」を注文したが、最悪の料理だった。ほか、注文は、カツとじ丼、親子丼だった。
夜半、予報通り雨が降り出した。

４日目（５月２５日）木・雨

コース　　起床４：００－「昴」発５：００－林道入り口―果無入口―果無集落５：３３―観音堂６：５３―果無峠７：３９－シャクナゲ群落―八木尾バス停１０：２６―Ｒ１６８－中辺路―熊野本宮大社１２：１５～３４―長泉２０：００

距　離　　１５ｋｍ

標高差　　上り　吊橋約１５０ｍ～果無峠１１１４ｍ＝約９６４ｍ
　　下り　果無峠１１１４ｍ～八木尾バス停約８３ｍ＝約１０３１ｍ
　　上り　熊野神宮手前の中辺路＝やや上りあり

今日は帰静するので、起床は４：００。朝食は弁当。雨はさほど降っていなかった。ただ、吊橋が濡れて危険なので、少し下流の橋を渡り、林道から登山口着。
果無集落はすぐ着いた。早朝なので静か。
昨日の情報では、何人か住んでいるようだ。水飲場に、一輪のシャクヤクが飾ってあった。

果無集落

水飲場のシャクヤク

３０分上った所に水田跡があった。昔は、こんな山中で米を作ったのだろうか。看板には、水は天水のみと記してあった。１時間ちょっとで観音堂着。美味しい水が流れていた。
皆さん、ここで朝食。腹を満たす。お堂の裏には、既に咲き終えたシャクナゲの大木があった。種類は不明だが、花が小さかった。

観音堂

中の仏様

扉を開けると、石仏が三体鎮座していた。合掌して出発。
峠下の急坂を上って行くと、上から外人さんが駆け下りて来た。突然の出来事で何事かと思った。
３０歳くらいの男子で、雨の中、Ｔシャツ・半ズボン・傘・帽子なしで驚いた。
一瞬だったが、挨拶だけして分かれた。
雨の果無峠だった。上りはこれで終了。後は下るだけ。下って行くと、ピンクの花が落ちていた。
シャクナゲだった。一帯はシャクナゲの群落だった。
やや盛りは過ぎたが、まだまだ見れた。パンフレットに「花折茶屋跡」があるが名残りだろうか。

シャクナゲ

スペインの方

群落の先で、単独のスペイン人に会った。
彼はテント泊で午後の天気､明日の天気を気にしていた｡結果的に翌日から好天が続き良かった。３ヶ月の休暇で来日したという。４４歳。私は７０歳、一緒だったＧさんが６０歳というと、あなた方は、年齢が逆に見えると言って笑わせた。
七色集落分岐を経て、長い下りで八木尾集落着。登山口の民家の車庫を借りて大休憩。皆さん、続々と降りて来る。この下が八木尾バス停。バス班が降りて迎えてくれた。
大きな河原の熊野川に沿って熊野本宮に向かう。途中、道の駅で昼食と飲み物を購入した。
三軒茶屋跡から中辺路を辿り最後の歩き。ここも外人さんが多かった。
カップルの二人は、３２・３４歳のメキシコ人。３週間のハネムーンとのこと。小柄な可愛い女性だった。下れば熊野本宮大社。お参りを済ませ、長い旅は終わった。

八木尾バス停

熊野川

ハネムーンのメキシコの方

八咫烏（やたがらす）説明板

熊野本宮

皆さん、お疲れ様でした。

ご苦労様でした。

**次回予定**

２０１７．１０．３０（月）～１１月２日

熊野古道・中辺路を予定です。